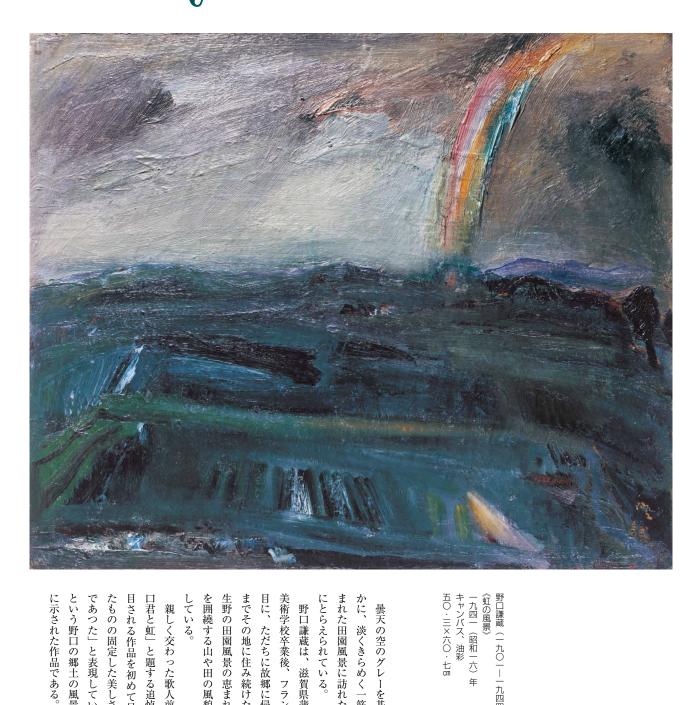
アマリリス

静岡県立美術館ニュ-

THE JOURNAL OF SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



野口謙蔵(一九〇一—一九四四/明治三四—昭和一九) 《虹の風景》 |九四| (昭和|六) 年

まれた田園風景に訪れた一瞬の心躍る光景が穏やか かに、淡くきらめく一筋の虹が立ち上る。静寂に包 にとらえられている。 野口謙蔵は、滋賀県蒲生郡蒲生町に生まれ、東京 曇天の空のグレーを基調とする暗く深い色彩のな

目に、ただちに故郷に帰り、一九四四年に亡くなる という野口の郷土の風景に心動かされた喜びが素直 であつた」と表現している。「画は驚きの表現なり」 目される作品を初めて見た際の感激を、「完成され までその地に住み続けた。琵琶湖東部に位置する蒲 美術学校卒業後、フランスに憧れを抱く同窓生を尻 たものの固定した美しさを遥かに突き抜けた美しさ 口君と虹」と題する追悼文を書いた。そこで本作と を囲繞する山や田の風貌を飽きることなく何百と写 生野の田園風景の恵まれた自然を心より愛し、自ら 親しく交わった歌人前田夕暮は、野口の没後「野

(主任学芸員 喜夛孝臣)

No. 151 2023年度 | 秋 |

肥後熊本といえば喜三郎と清正公

国寺に伝わる人形は後年の再製作です 提寺、浄国寺を訪ね、〈谷汲観音〉と対 はなく仏像として遇されていました。 ものが豪華な厨子に納められ、 が、そもそもは見世物の世界にあった 音像に恐れいるという趣向でした。浄 厳寺、最後に生きているかのような観 七一)に浅草寺境内で興行し、 面しました。喜三郎が明治四年(一八 ら三〇年以上も前のこと、喜三郎の菩 末の生人形師松本喜三郎でした。今か ランとなった生人形の見世物「西国三 その後二〇〇四年に熊本市現代美術 最初に私を熊本に呼び寄せたのは幕 一の満願霊場が美濃の谷汲山華 人形で ロング

> 遇されたのです。 術館において、人形は彫刻作品としてう展覧会で紹介されました。今度は美ブタイトルに「反近代の逆襲」をうたいうともに熊本出身の生人形師が、サいうともに熊本出身の生人形師が、サ

喜三郎が江戸の熊本藩邸に出入りし 喜三郎が江戸の熊本藩邸に出入りし 高三郎の江戸でのデビューは安政 り。喜三郎の江戸でのデビューは安政 り。喜三郎の江戸でのデビューは安政 二年(一八五五)春、その評判は殿様 一九五五)春、その評判は殿様

下屋敷であった浜町屋敷には、文久元年(一八六一)に熊本の本妙寺から清正公が勧請されました。清正公とは清正公が勧請されました。清正公とは細川家に先立って熊本を治めた加藤清正のこと、死後に神格化され、細川家正のこと、死後に神格化され、細川家正のこと、死後に神格化され、細川家市かります。江戸の大名屋敷では、国わかります。江戸の大名屋敷では、国わかります。江戸の大名屋敷では、文久の大路で、東京に入れ、神川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれ、柳川藩下屋敷の太郎稲荷はいわゆれていた。

館が開館すると、喜三郎と安本亀八と

詣者が絶えません。 天宮は人形町に場所を移し、今なお参る流行神となり、久留米藩上屋敷の水

館長

木下

直

之

開扉。 間違いで、 二十四日、詣人群をなせり(肥後国熊本 正公寺が存在しています。 立浜町公園に変わり、その一角には清 りました。それで済んだかといえば大 名勝図会』)、清正公祠は加藤神社とな 勧請し祭祀せり」(岡部啓五郎 敷にも「明治五年肥後熊本より神像を 神社が創建されます。同様に、 は破却され、代わって熊本城内に加藤 寺の清正墓所に建てられていた浄池廟 によって清正公は翻弄されます。 のですが、決定的な証拠がありません。 郎が担ったのではないかと睨んでいる 年表』)。等身像であれば、それは喜三 れし所にして、等身の像といふ」(『武江 勧請の像を模刻し、あらたに勧請せら 明治を迎えると、新政府の宗教政策 翌二年には、浜町屋敷でも「清正公 参詣をゆるさるる。是より毎月 現在では浜町屋敷は中央区 浜町屋 『東京 本妙

病対策に刺激を与えました。

参道で物乞いする患者たちの姿を目に うとしたのです。墓地周辺に住み着き、 ありました。まさしく清正公にすがろ ったハンセン病患者が集まる霊場でも ください。ちなみに、開港地横浜でも清 像時代』(岩波書店、二〇一四)に収めた よって、その姿と評価をどう変えてい した。この行動は、その後のハンセン に私立療養所「回春病院」を設立しま は救済を決意、明治二八年(一八九五 したイギリス人宣教師ハンナ・リデル ファベットでその名を刻んでいます。 正公は祀られ、横浜一の風俗街にアル 付き合ってもよいという方は、拙著『銅 横浜 SEISHOKO STREET」をご覧 さて、本妙寺といえば、 神格化されたひとりの武将が時代に スリリングな展開にもう少し 行き場を失

一四年後に、公立九州療養所が誕生しました。昭和一五年(一九四○)には、本妙寺事件と呼ばれる大規模な強は、本妙寺事件と呼ばれる大規模な強は、本妙寺事件と呼ばれる大規模な強に展示されたのです。今度の熊本行での絵が昨年の「みる誕生―鴻池朋子展」の絵が昨年の「みる誕生―鴻池朋子展」に展示されたのです。今度の熊本行では恵楓園も訪れるつもり、よってこのは恵楓園も訪れるつもり、よってこのは恵楓園も訪れるつもり、よってこのは恵楓園も訪れるつもり、よってこのは恵楓園も訪れるつもり、よってこのは恵楓園も訪れるつもり、よってこのは恵楓園もおいる。

夏休み子どもワークショップ

「ちくちくアート」を振り返って

実技室エデュケーショナルスタッフ

中

友絵

「さあ、これからこの布をめくってみるよ!」という講師の掛け声と共に、大きな布の下から色彩豊かな材料がだっと現れました。参加者の子ども達が瞳を輝かせてじっと見つめる目線の先にあるのはカラフルな毛糸やたくさんのボタンやビーズなど。全て、ボランティアの皆様を中心に譲っていただいた品々です。

色彩豊かな材料が並ぶ実技室にて、

八月五日(土)と六日(日)の二日間に、夏休み子どもワークショップ「ちくちくアート」を実施いたしました。「夏休み子どもワークショップ」とは、小学生を対象に、夏休みという比較的水館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びをめてもらうことを目的としたプログラムです(静岡県立美術館令和四年度年報四三ページより)。一九八八年より実施しています。

小学二年生から六年生までの参加者十瀬川夏帆氏を講師にお招きしました。



ジーと白い布との間に好きなものを挟んで刺繍を施している様子

成したIFEEで動員しているfx

超える大きな作品を仕上げました。完 品を縫い合わせて、 品配置を決め、ミシンでそれぞれの作 二日目には参加者同士で話し合って作 の喜びに満ち溢れ、まぶしい程でした。 作に取り組む子ども達の姿は、 も、「やったぁ!つくりたい!」と制 と講師をはじめスタッフが声をかけて りたかったら続けてもいいけれど…_ ました。「休憩していいんだよ。 いう子ども達の勢いある姿に驚かされ 間を設けましたが、休憩は要らないと 加者の体力や集中力を考慮して休憩時 品を制作しました。小学校低学年の参 着色した布に刺繍を加え、複数枚の作 縫い合わせました。他にも、絵の具で 布とを重ねた間に好きな材料を挟んで ンジー」という透明感のある布と白い 挑戦しました。一日目には、「オーガ 糸を使って、二日間じっくりと刺繍に ファッションと。」展と関連し、 名が「糸で描く物語 横幅二メートルを 刺繍と、絵と、 、制作へ つく

> 誇らしげでした。 た。子ども達は満面の笑みで、とてもー音がしばらく鳴りやみませんでし護者の皆様による記念撮影のシャッタ

覧くださいませ りがとうございました。この場を借り び足を運んでもらえたら、 るね!」と声をかけてくれる子ども達。 ショップが終わり、帰り際に「また来 ます。子ども達と共に私自身もわくわ 通じた豊かな鑑賞の喜びが伝わってき 声が聴こえてきます。作家や参加者と ラキラしているみたいでしょ。」等の 雨上がりのしずくが葉っぱについてキ 立ち寄りの際にはよろしければ是非ご 技室横の壁面に掲示しております。お て御礼申し上げます。現在、 ました。末筆になりますが、材料提供 な願いを込めながら私は手を振り返し てもずっと親しんでもらえたら…そん くしていることに気付きます。ワーク の対話、展覧会観覧、そして、制作を 描きたいの。」、「ビーズのキラキラは、 お月さまの中にうさぎさんを(刺繍で) にご協力いただきました皆様、誠にあ 二日間の体験を胸に刻んで美術館へ再 ると、「お月さまを(絵の具で)描いて、 活動中の子ども達の言葉に耳を傾け 大人になっ 作品は実

がよいのです。

スーパースター 大大名の名宝 文庫×静岡県美の狩野派

2023年10月17日(火)~12月10日(日)

企画展

永青文庫と当館とのコラボレーション により開催します。 ひとつである狩野派の展覧会、今回は、 静岡県立美術館の活動の重要な柱の

異色のコラボ展と思われるかもしれま クションのあり方が根本から異なり、 を受け継ぐ美術館と一九八〇年代から 本流の充実した作品群を擁するという それぞれの特色を持ちつつ共に狩野派 活動を始めた県立美術館とでは、 を所蔵する美術館です。 治めた大大名・細川家に伝来する美術 工芸品や歴史資料など、約九万四千点 水青文庫は、肥後熊本五十四万石を しかし、こと狩野派に関しては、 実は両館のコレクションは相性 大名家の宝物 コレ

> 野派のエッセンスに触れていただきま 幕を開けます。 蔵されています。永青文庫所蔵品を迎 にはこの時代の狩野派の優品が多く所 細川家の歴史を背景として、永青文庫 蔵する作品は多くありません。 もなかなか得られるものではなく、 た当館では、この時代の作品は求めて の孫・永徳の高弟である狩野山楽を軸 った狩野元信の作品から始まり、 えて華やぐ第一室を、 展覧会は、室町・桃山時代の作品で 美術館設立を機に作品収集を始め 多様な展開を見せた桃山後期の狩 狩野派繁栄の基礎を作 ぜひご堪能くだ 一方、 元信 所

狩野派の本流をなす人々の代表作を所 戸後期の木挽町家の実力者まで、 な巨匠から狩野栄信・養信といった 第の3、 第の3、 動を続けてきた当館では、 こは得意分野です。 められていますが、当館にとってもこ た両家の作品は、やはり永青文庫に収 動に注目します。江戸狩野派の主流と 次弟・狩野尚信に始まる木挽町家の活 いまほど認識されていなかった頃か して狩野派を、 狩野探幽を祖とする鍛冶橋家と、その 続く第二章では、江戸狩野派のうち、 狩野派の調査研究と地道な収集活 ひいては画壇を牽引し 狩野派の重要性が 探幽のよう

> とでしょう。 かでも特に注目されるこ による競演は、 蔵する栄信・養信の名品 蔵しています。 両館が所 本展のな

しい豪奢な画帖、 えて、大名家の所蔵品ら 第三章では、 視点を変 あるい

刺激的な試みといえます。 幅広い役割を想像させるという点で、 ようや、この時代に狩野派が果たした 江戸時代の全国各藩の御抱絵師のあり その活動について掘り下げることは について、 で細川家の画事に携わった彼らの作品 げます。江戸狩野派とはまた異なる形 師として活動した肥後狩野派を取り上 の研究成果にも触れていただきます。 す。江戸狩野派が実際に目にし、参照し 展示するコーナーも本展のポイントで 果を記した江戸狩野派の添状とともに 画コレクションについて、その鑑定結 事をご紹介します。永青文庫の中国絵 は刀掛や両面屏風といったお道具類な んど紹介の機会がありませんでした。 たであろう中国絵画の事例など、 最後の第四章では、熊本藩の御抱絵 大名家にまつわる江戸狩野派の仕 熊本以外ではこれまでほと 最新

その成果を踏まえて作り込まれた展覧 永青文庫の狩野派の全容を調査し、

狩野元信「細川澄元像」永青文庫蔵 (重要文化財)

会* 名品揃いの正統派の展示であり、

狩野養信「胡蝶船遊之図」永青文庫蔵

※本展は、今年三月まで当館に在籍した野田麻美氏 員学芸員)によって企画・構成されました。 (神戸大学大学院人文学研究科専任講師、当館客

どうぞご期待ください。

(学芸課長

石上充代

とのできる新鮮な内容となりました。

かつ狩野派研究の最前線にも触れるこ

から成ります。 る預言の記述)、 記された文書です。 の信仰の礎であり、 預言書 諸書 **(詩、**

収蔵品展

版画でひもとく聖書と神話 ラーからピカソまで

ネの黙示録から成ります。 代教会の指導者たちによる書簡、 キリスト死後の初代教会の歴史)、

ヨハ

初

の生涯と言葉)、使徒言行録

(イエス・

新約聖書は、福音

(イエス・キリスト

新約の両方を『聖書』としています。 旧約聖書と呼び、キリスト教は旧

2023年10月17日(火)~12月10日(日)

当館の西洋版画コレクションより

れらについてごく簡潔にご説明しまし い分野かもしれません。はじめに、こ シア神話も、 作品をご紹介します。 聖書』とギリシア神話を主題とする 日本では少々なじみの薄 『聖書』もギリ

ユダヤ教とキリスト教 キリスト教ではこれを (神からの啓示であ 教理や戒律などが ユダヤ教の『聖書』 知恵文学 れば、 スの誕生など、

『聖書』は、

ギリシアの文化は古代ローマに積極的 前や多少形を変えて、 の起源、 古来の神々と同 に吸収され、ギリシアの神々がローマ 字資料として体系的に記されました。 スやヘシオドスらの叙事詩によって文 じめ口承で伝えられたものが、 出した神話・伝説などの総称です。 て発展します。 ギリシア神話は、 神々や英雄たちの物語は、 一視された結果、 ギリシア人の生み ローマ神話とし ホメロ は 名

だけで鑑賞するに十分ですが、主題を ときに洗練された描写や構図は、 来よりさまざまな作家の着想源とし その卓越した技術と、ときに素朴な、 天地創造やキリストの磔刑、 を成す『聖書』とギリシア神話は、 て、美術作品の主題となってきました。 大部分は、多様な技法による版画です。 西洋の歴史、哲学や思想などの根幹 ご存知の方は多いのではないで 今回ご紹介する出品作品の 有名な主題の作品であ ヴィーナ 古

・ドメニコ・ティエボロ『エジプトへの逃避』より「逃避途上の休息」

す。 知ると鑑賞の奥行きが 一層広がりま

ス。 に登場する秘密組織ヒュドラは、 あります。また、 その名に因み、 は、ヘラクレスのフランス語読みです。 た名探偵ポアロの名前エルキュール られるギリシア神話の英雄ヘラクレ ない場面でも遭遇することになりま 透しているため、 に根ざす歴史や伝統は社会の隅々に浸 『ヘラクレスの冒険』という短編集が ところで、『聖書』やギリシア神話 アガサ・クリスティーが生み出し 例えば、 「十二の功業」などで知 十二の功績をまとめた 美術以外の思いがけ マーベル・コミック 何度

> これはヘラクレスが退治した多頭の 打ち倒されても復活する敵役です

ゼバルト・ベーハム『ヘラクレスの事績』より「ヘラクレスとヒュドラ」

ません。 ュドラに由来することは、 とそこからふたつの頭が生えてくるヒ すなわち、ひとつ頭を切り落とす 間違いあり

この展示をきっかけとして、 美術を一層楽しめるようになります。 作品に描かれたものが指し示す内容 っていただけたら幸いです。 作品の美的鑑賞はもちろんのこと、 その背景となった物語を知ると、 上席学芸員 関心をも

※女神ウェヌス(ローマ名)の英語読み。ギリシア

名はアフロディテ。

施設、

組織が普及した現在の視点から、

た企画、キュレーションの機能を持った 言葉を使用したが、美術館や画廊といっ

作者が自ら行う企画があることは付け 強調しているに過ぎない。過去も現在も、

えておきたい。

主企画展覧会について

植松 篤

上席学芸員

論や展覧会評と言った内容を論じるので 運営が多数認められる。ここでは、作品 ついて言及する。なお、「自主」という きた美術の場、環境の繋がりや重なりに いて取り上げたい。静岡の現代美術を振 ィストの自主企画による展覧会活動につ 年代」に関連して、静岡におけるアーテ び収蔵品展「静岡の現代美術と1980 企画展「天地耕作 本稿では、二〇 芸術家達が生み出し発展させて グループ展の自主的な企画 個々の芸術家の作品発表に留 初源への道行き」及 一四年二月に開幕する

当時これらの既成の枠が感じられたのだ の固定した中央集権的な在り方を見直し 観と権威主義を排除して」「現代美術界 らわれることなく」「既成の美術の価 ている。例えば、「美術のジャンルにと 成の枠を打ち破りたいという意思が表れ っていた。作者らが作った冊子には、 営し、都度解散するという運営方法をと あり、一回毎に、出品者が集まり企画運 県の若い世代の創作者が集まったもので 画したものである。これらの活動につい えるなら、彼ら/彼女らの肌感覚として、 て」といった、強い言葉が並ぶ。言い換 開催されている。画家の坂田和之ら静岡 が、まだ詳らかになっていない点も多い。 るのは、個人として一時的に集合し、企 あった。そうではなく、本稿で取り上げ 先鋭的な活動をしたグループ「幻触」 の例で言えば、一九六〇年代から一九七 展覧会を主催することは一般的だ。静岡 ない。ある団体やグループが自分たちの をなすグループによるものを指すのでは ては、これまでも折々に言及されてきた ○年代にかけて批評家石子順造を中心に 一九八六年にかけては「art space」が 年代を追って述べると、一九七九年~ これらの自主企画展覧会は、一つの形 既 が

> 耕作」を開始することになる村上誠、 後に野外美術制作のプロジェクト「天地 払うことが主眼だったのである。 設定されていなかった。既成の枠を取り であったが、一方で展覧会のテーマ等は 品などもあった。そうした意味では多様 体だけではなく、書やパフォーマンス作 が二〇名前後で、出品作品は、平面、 いる者もいた。出品者の数は、回による ろう。出品者の中には美術団体に属して 上渡、山本裕司も参加している。 なお、

らが担当している。 山本晴康 (第六回)、 嘉尚 (第四回、第五回)、大森泉 (第五回)、 おり、フライヤーで確認する限り、 事務局は回により異なる作家が担当して バーの一部が「art space」とも重なり 品者は一五名となっていた。また、メン となった第六回展の「温度展」では、 定された。当初は七名ではじめられたが、 れたタイトルの一部等がテーマとして設 常的な事物や、当時のヒット曲につけら パイヤ・マンゴー」といったように、日 ないようなものをテーマに掲げていた。 展は、通常展覧会テーマとはなりそうに 催された「テーマ展」がある。このテーマ 四年から一九八五年にかけて集中的に開 入れ替わりがありつつ人数が増え、最終 「ゴム展」、「スイッチ展」、「キウイ・ art space」が変容する契機ともなった。 「art space」の時期と重なるが、一九八 山本裕司 (第六回 白井

を契機として、清水市民文化会館ギャラ 一九八六年には静岡県立美術館の開館

> ションやメディアアート、パフォーマン 長船は写真表現をはじめ、 が含まれ、世代的に幅が広いものとなっ 昭二、小池一誠、鈴木慶則、丹羽勝次ら ループ「幻触」のメンバーであった飯田 リーにて「風景」展が開催され、総勢三 ストであり、「art space '86」、「テーマ展 スまで幅広い表現をおこなったアーティ た。実行委員長は長船恒利が務めている。 五名という規模となった。出品者にはグ (第四~六回)にも参加していた。 インスタレー

る企画があることが発表されている。 は、一九八八年にも静岡と山梨が交流す という経緯がある。その第七回展の際に その第七回展に静岡の作家らが参加した 梨でアーティストによる自主企画展「試 の企画には山梨等の県外の作家も参加し 幅広い世代の作家が参加した。また、こ こちらも「幻触」の元メンバーを含む された。三〇名の県内外の出品者がおり、 連なっている。倉庫が会場となっており、 企画者として長船恒利と白井嘉尚の名も 流れを受けてのものである。カタログに 行する美術」が継続して開催されており、 ていた。これには、やはり同じように山 広い空間にスケールの大きな作品が展示 が上がっているだけだが、新聞記事には は、実行委員の宛先として山本晴康の名 ィバル in SHIMIZU」は「art space」の 翌一九八七年の「現代アートフェステ

⁻A-Value」が開催された。 九八八年から一九九五年まで 山梨との交流が契機の一つとなって、 初回は書家

設定がなされ、 マニラで開かれるなど、様々な形の交流 作家の出品もあり、第七回はフィリピン・ 連の展覧会では、各回ゆるやかなテーマ 流展としての体裁も取っていた。この 第一回展については、 尚らが事務局を務めていた。前述の通り、 の大杉弘子を代表に、長船恒利や白井嘉 した。以降の回では、 当館の県民ギャラリーという貸出を 第七回を除いて、「A-Value. 幅広い世代の作家が出品 静岡と山梨との交 山梨以外の地域の

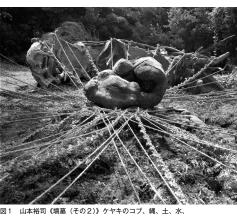


図 2 白井嘉尚 《Drawing by Printing(1991, 10·4)》 紙、モノタイプ、18.0×14.8cm、1991年 「A-Value展V」(1992年)出品作

図1 山本裕司 (墳墓 (その2)) ケヤキのコブ、縄、土、水、 H120×W1000×D400cm、1989年、当館裏山

例を挙げるのはここまでに留める。 開催していた。以上、不足はあるが、 卵と言えるような十代のメンバーによる 三年から沼津市で、まだアーティストの け触れるなら、静岡県東部では、 県東部、 中部の話題が中心となったが、もちろん 外美術展」(一九八〇~一九八七年)を では、県外の作家が中心だが、浜松の砂 イプの版画四点を所蔵している 丘を展示場所として見いだし、 「ストレイツ展」が始められた。 以上、紙幅及び調査の都合上、 西部でも活動はあった。 「浜松野 (図 2)。 二例だ 県西部 静岡県 一九八 事

動を追うことができているのは、アーテ す作業が求められるだろう。 ットワークの結節点の一つとして読み直 のと言える。これらの活動の意義を解き るおかげでもある。今回取り上げた自主 美術館等が開催するものとは異なる展覧 わりがありつつも作家が企画者となり、 ィストらがそれぞれに発行物を残して 会を打ち出してきた。それらを本稿で活 上記で取り上げてきたように、 画展覧会は、 美術の場、 様々に交差しながら変化するネ 静岡をローカルな一地方で 美術の流通を主体的に制 環境を形作ってきたも 入れ替

> 美術館紀要』第三一号、静岡県立美術館、二〇一アマチュア写真家の関わりについて」『静岡県立 況展Ⅱ—日本画・工芸・彫刻—』、静岡県立美術館、編「静岡県内美術年表 戦後編」『県内美術の現 の「在るもの」と、1970年代の静岡、東京の一九九〇年、五八~六四頁。川谷承子「長船恒利 ブ/1980年代―静岡』、静岡市美術館、二〇六年、九~二三頁。『Shizubi Project 7 アーカイ 主な先行研究として下記などがある。立花義彰

用することもあり、「天地耕作」は野外 屋外の展示テラスや裏山を会場として利 とゆかりの深いものである。回によって、 行っている会場で開催されており、当館

の空間を活用した(図1)。なお当館は

白井嘉尚による出品作品のうち、

モノタ

space '84』、art space '84 実行委員会、一九八四年、 会場は、いずれの回も静岡市民文化会館であった。

Art space 実行委員会、一九八〇年、頁記載なし。 記名 無し、 タイトル なし、『art space '80』、

一九八四年の二月、五月、八月、十月、 と渡は共作で一九八六年に出品した。山本裕司は一九八五年と一九八六年に、 一九八

代アートフェスティバル in清水」実行委員会、一『現代アートフェスティバル in SHIMIZU』、「現 トギャラリー(富士市)、パルシェ5Fギャラリ五年の三月、十月に開催された。会場はフジアー 1 (静岡市)など。

九八七年。

一九八七年一〇月二十七日。 記名無し「倉庫を会場 美術展」『朝日新聞』

わゆる写真の表現者と美術家との交流は、すでに聞(夕刊)』、一九八七年九月三〇日)。また、いする美術展」(山梨県立美術館)に参加」『静岡新 八六年)といった展覧会でも機会があった。 年) や「HYPER BIT PHOTOGRAPHS」(一九 博物誌の主催により、山梨県立美術館で開催され、会期は一九八七年八月二五日~三〇日。書肆・ ンダン、静岡市の元ジャズ喫茶ジュジュの写真展によれば「アート・スペース、沼津市のアンデパ 行する美術 [重層する、浮遊。] 展』書肆・博物誌、 イトルが付されている(下記を参照。『第7回試た。第七回展には、「重層する、浮遊。」のサブタ 「写真・映像フォーラム」(一九八五年、一九八七 さったと言える(下記を参照。大杉弘子「「試行 参加したとあり、この展覧会で複数の流れが合わ フォーラム文化の冒険にかかわった人々」などが メンバー、元美術舎とパフォーマンス周辺の人々、 一九八七年、頁記載なし。)。また書家の大杉弘子

回試行する美術 [重層する、浮遊。] 展』、書肆・10 山本育夫 「本展を企画するにあたって」 『第7 博物誌、一九八七年、頁記載なし。

12 この展覧会については、尾野正晴「ささやかな Project 7 アーカイブ/1980年代―静岡』に○○四年、七九~八四頁や、註1の『Shizubi術大学研究紀要』第5巻、静岡文化芸術大学、二帯の跡―浜松野外美術展の記録―」『静岡文化芸夢の跡―浜松野外美術展の記録―」『静岡文化芸 EXHIBITION PUBLICITY』発行元記載なし。できたが、以降は不明。(『STRAIGHT'S 一九八八年の第六回展までは発行物により確認



本の窓

長新太の絵本 文研出版 二〇一四年 ほか キャベツくんシリーズ **『キャベツくんのにちようび』**

要な役割を果たしています。 出する装置として、地平線や水平線が重 ものごとがやってくる。次は一体何が…。 るたびに、地平線の向こうから予想外の かつを食べる月などなど、ページをめく とんかつにとんかつソース、 長新太の絵本では、そうした期待を創 広大なキャベツ畑に、 招き猫の軍団 そしてとん

ば基盤のようなものです。 や視点を定め、奥行きを作り出す、 景画においても、地(水)平線は、 当館コレクションの柱の一つである風 構図

風景画は、美術史の主流から姿を消して せんでした。長新太が描く地(水) いましたが、 には、そんな想像力の豊かさを考えるヒ 人間の想像力が省みられることはありま モダニズムの美学の広がりとともに、 隠されている気がしています。 その時、 上席学芸員 風景に投影される 貴家映子 平線

今年度四月から学芸課でお世話になって

学芸課非常勤 職 員

大橋香奈子



富士山にふ

力ながら、

展覧会の準備をお手伝いさせて

館内外の研究者・学芸員

V

大大名の名宝」

展が始まります。

私 企画

もう十月。

清々しい秋に似合いの

そんな

秋静岡で味わってみてください

地に居を構える静 楽しく感じられま 0 やかな緊張感も 印象は、 そして、

展覧会が段々と出来上がってゆく、

忙しく

も楽しい行程をご一

緒させていただきまし

みなさまぜひ、

歴史と美の香り

を、

の方々やデザイナー いただきました。

・印刷会社の方々と

からでも晴れた日には富士山がよく見えま 関係性が紡がれてきました。 とに、とても感謝しております。 の仕事に携わるというご縁をいただけたこ おります。 表現をもって富士山を描き、 `歴史上、様々な画家が実に多様な意図と 岡県立美術館もいろいろな富士山の絵 に対してどんな印象をお持ちですかっ 岡といえば、富士山。これは外せません 岡県立美術館において、 絵画史の研究をしていました。 富士山は大きく威厳があり、 愛知県出身で、 大学院では日本 みなさんは富 名山と人々の 美術館の現場 当館の近く 眺めてい どし 美 この度 た。 は 館

働いてみると、 います。 多くの方々の仕事によって日 を疎かにすることはできません。 と同時に内部・ つくりあげていることを実感し、 わされる、忙しい職業ともいえます。 して個々に多くの業務を担当します。 ることをとても嬉しく思うのです 分からないことが山のようにありま 人、 職員の真摯な態度こそがこの美術館を そのどれに対しても、 学芸員はそれぞれの専門性を活か 外部と頻繁にやりとり 普段展示を見ているだけ 々運営され 向き合 学芸課で 作品 が交

富士と静岡県美はよく似ている、 岡県立美術館にも感じられることです。 こに収蔵・展示されるたくさんの作品も ・ましょうか)丘を抜けて現れる広々とした館内 Ŕ

そ

利用案内

開館時間:10:00~17:30(展示室への入室は17:00まで) 休 館 日:毎週月曜日(月曜祝日の場合は開館、翌火曜日休館) ※9月19日(火)~10月16日(月)、

12月11日(月)~2024年2月9日(金)は工事休館

アクセス

◎JR「草薙駅」 県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分 ◎静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分またはバスで約3分 ◎東名高速道路 静岡IC、清水ICから約25分 日本平久能山スマートICから約15分 ◎新東名高速道路 新静岡ICから約25分

ウェブサイト: https://spmoa.shizuoka.shizuoka.ip

※イベント等は都合により変更になる場合があります。

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 企画総務課/Tel 054-263-5755 Fax 054-263-5767 芸 課/Tel 054-263-5857 Fax 054-263-5742







美術館 豇 Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

ロダンウィーク2023のご案内

11月1日(水)~11月5日(日) 10:00~12:00/13:00~15:30

美術館は学芸課・

企画総務課を中心に

ちょこっと体験講座 ミニ考える人づくり

会場:静岡県立美術館エントランス

11月3日(金·祝)

10:00~16:00 丘の上のロダンマルシェ

会場: 当館正面広場ほか ※荒天中止

10:00~15:30 友の会ひろば

会場:当館正面玄関前

10:00~15:00 美術館クイズラリー

会場: 当館展示室 ※グッズの引き換えは16:00まで

13:30~15:15 「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート 会場:ロダン館 出演者:蒔田未来(ピアノ)、伊澤拓未(ピアノ)

11月5日(日)

14:00~15:00 コンサート「奏×装 ~音とロダンと装いと~」

会場:ロダン館

出演者:花井悠希(ヴァイオリン)、後藤友香理(ピアノ)

《東アジア文化都市2023静岡県 コラボイベント》

11月4日(土)~11月5日(日)

中国文化体験ブース

会場: 当館エントランスホール、情報コーナー

11月5日(日)

13:00~13:45、15:30~16:15 中国伝統芸能×現代音楽新感覚ステージ!

会場: 当館講堂